

第 35 回 小学生書道コンクール講評

審査員 佐原 公子

私の目に飛び込んでくる、たくさんの作品から、皆さんが一人ひとりお手本を見て、自分の見方や感じ方を表現していることを感じ、とても嬉しかったです。

お手本を見る、自分の手で書く、という繰り返しを通して、基本を身に付けていきます。そんな日々の積み重ねが上達につながるということを、学年が上がるにつれ、習熟度が上がっているのを見て強く実感しました。

審査をする際に、

- 全体のバランス
- 基本点画(とめ、はね、はらい)ができているか
- 名前も丁寧に書かれているか

を重視しながら作品を選びました。

復習として各学年の作品を書く上でのポイントを書き出しておきます。

三年生「文化」

中心をとるのが難しい作品です。しっかり中心がとれること、「文」の右払いの筆運びは、一度止め丁寧に払うのがポイントです。

四年生「未来」

横線の長さ、方向の書き分け、左払い、右払いのバランス、そして縦線を中心に真っ直ぐ引くのがポイントです。

五年生「伝統」

「へん」と「つくり」の関係を見て、左右のバランスをしっかり見て書くこと、「統」の最後のはねは、筆の穂先の使い方に注意して書くことがポイントです。

六年生「希望」

中心をしっかり見ること、三カ所の左払いの方向を書き分ける。そして、メリハリある太細^{たさい}の変化をつけて書くことがポイントです。

最後に、「学ぶ」ことは、「まねる」ことから始まります。

お手本の、一つの字の中の、太い、細い、長い、短い、方向、字のつながり、字のバランス、作品のバランスをよく見て、まねして書く。

これを繰り返し練習する事が大切です。数回書いただけで自分にはできないと諦めるのではなく、何度も繰り返し練習を積み重ねてみてください。上達するはずですよ。来年、繰り返し練習を積み重ねた皆さんの作品に出会えるのを楽しみにしています。

【最優秀賞講評】

三年生 勝田彩月

半紙全体を使い、伸びやかな線、バランスもよく、勢いを感じる力強い作品に仕上がりました。

四年生 大久保萌海

迷いない縦線に、始筆、終筆がとても丁寧^{ていねい}に書け、名前も作品の一部となり、素晴らしい作品です。

五年生 天野愛海

エネルギッシュな作品の中に、繊細^{せんさい}な筆づかいも見られ、名前も含め、バランスのいい作品に仕上がりました。

六年生 片平小春

丁寧な筆運び、基本点画の正確さ、名前も素晴らしく、日ごろの練習成果が実を結んだ美しい作品です。